

(様式)

大阪市建設局設計・施工技術連絡会議 議事録

工 事 名	淀川左岸線（２期）トンネル整備工事－２		
会 議 名 称	大阪市建設局設計・施工技術連絡会議（第１回）		
開 催 日 時	令和２年１２月１６日（水）１３：３０～１４：１５		
開 催 場 所	建設局野田工営所（淀川左岸線２期建設事務所）３階会議室		
出 席 者	発注者	設計者	受注者
	建設局淀川左岸線２期	株式会社	熊谷組・森組特定建設工
	建設事務所	エイト日本技術開発	事共同企業体
	設計課 建設課		
議題・議事の内容			
（１） 工事概要			
<p>淀川左岸線（２期）事業は、此花区高見から北区豊崎までの自動車専用道であり、淀川堤防と一体構造となるトンネル構造物を開削工法にて整備するものである。</p> <p>本工事は、淀川左岸線（２期）事業のうち、北区大淀北２丁目から中津７丁目区間を対象とし、詳細設計付きの工事を行うものである。</p>			
（２） 事案概要			
<p>本事案は、構造物撤去工（既設幹線下水撤去）にあたり、現地調査の結果、当初設計どおりの鋼矢板土留め工法では、掘削により、その底部に盤ぶくれが生じることが判明したため安全性の確保の観点から、その施工について工法を見直す必要が生じている。それにかかる設計変更案の妥当性を確認するものである。</p>			
（３） 事案に対する検討内容			
<p>既設幹線下水撤去について、トンネル本体工で施工する基礎形式（固結工法区間及びサンドドレーン、サンドコンパクション区間）ごとに、それぞれの土質調査及び施工計画の検討を踏まえ、鋼矢板土留め工法から、置換杭工法への変更を行うことについて、その妥当性の検討を行う。</p>			
<p>（主な意見）</p> <p>・追加土質調査の結果、当初設計どおりの鋼矢板による土留めを用いた開削施工では、掘削底部に盤ぶくれが発生することが判明した。その対策として、掘削底部地盤を固結改良を補助工法として行う必要があるが、その結果として、費用が高くなるとともに、工期の面でも長くかかることから、本工事においては置換杭工法が妥当な施工である。</p> <p>なお、本工事の基礎工事の一区間における固結改良工法を行うトンネル基礎構築区間についても適切に検証されており、置換杭工法での施工については妥当といえる。</p>			